

週日の説教

金 大烈 神父 2008年8月21日(木)

《イエス様はいつも招いてくださっています》

今日の福音(マタイ 22・1-14)の内容は、すぐに分かると思います。

王が王子の結婚式のためにいろいろな人々を招いています。その招かれた人々の中には、招きを無視した人もいるし、自分の仕事のために行けなかった人もいるし、使いに来た家来を殺してしまった人もいます。それで、腹を立てた王は、軍隊を送ってその人々を滅ぼしてしまいました。そして準備された宴会のために、道にいる全ての人を連れて来て席を埋めるようにという命令を家来に出します。その中の一人だけが礼服を着ていませんでした。そこで、追い出すように、そうすれば暗闇の中で歯ざしりをするだろうと命令をする、という物語です。

では、最初に招かれた人々は誰でしょうか？ イエス様が生まれた時代、ヤーウェの神様を信じていたのはイスラエル人だけでした。他の民族は、自然そのものや獣などいろいろなものを神として信じていました。イスラエル人だけが唯一の神への信仰を持っていました。でもそのイスラエル人も、口ではいつも「神様、神様」と言いながら、神様のみ旨と全然違うことをしていました。その結果、たくさんの方の預言者を殺してしまいました。選ばれた民族としての意識が強かったのですが、選ばれたものとしての振る舞いが全然出来なかった民族でした。正しいことを口にする人をいつも殺してしまう、これがイスラエル人の旧約の歴史です。そういうことを見て、イエス様の心はとてつらかったでしょう。使いを殺したという話は、預言者達が殺されたり、洗礼者ヨハネが殺されたことをつらい気持ちで訴えているイエス様のたとえです。

その後、どういう人が選ばれましたか？ その時代は、異邦人といえばイスラエル人の意識の中では係わってはいけない不正な存在でした。人間として認められないものでした。隣の民族に対してもイスラエル人はとても冷たかったのです。それは、自分達に選ばれた民族としての強い意識がありすぎて他の民族を人間として認めなかったからです。そしてイエス様がおっしゃったのはヤーウェの神様に対する信仰はイスラエル民族から離れて他のいろいろな国に広まるだろう、ということです。それは今の時代を実際に見たら、その通りになったのが分かります。結局、全世界がイエス様を見て神様を分かるようになりました。その中で、一人だけ礼服を着ていなかったのは、これはイエス様のみ心をあらわす表現ではないかと思います。イエス様はできるだけたくさんの人々を抱きしめたいと思っています。しかし、この世の中には必ずそれを無視してしまう人々が存在します。その人々を礼服を着ていない一人で表現したのではないかと思います。では、礼服というのは何でしょうか？ それは、イスラエル人が犯した罪を同じように犯すことです。

私たち信者は日曜日教会に通います。でも、気分がのれば教会に行くし、他に楽しいことがあればそちらに行く、カトリック信者ですと言いながらも飾りのような信者生活をする人も結構います。

また、ご聖体に対しても自分が神様に願う気持ちでいただかない人が結構います。いろいろな神様がいる中で、おばけと仏様とマリア様とキリストとほかのいろいろなものを一緒におがむような形をする人もいます。そういう人々はイエス様のことを知らなかったほうがよかったのではないかと思います。いつも言っていますね。分からなくて犯す罪は赦される、分かっているのにわざわざ犯す罪は赦されない、と。これは私たちカトリックの信仰です。ある意味で、洗礼を受けることは決断をすることです。しかし信仰に対してあまりにも気軽に考えている人が多すぎるのではないかと思います。そういう人々を見たら、なぜ自分の選んだ宝物を宝物と思わないのか。それがとてつらい気持ちになります。

今日の福音(マタイ 22・1-14)を通して、私たち自身も振り返ってみましょう。信仰の豊かさをま

だ味あわない人々、「神様を信じます」と言いながらも拒んでいる人々のために祈りが必要ではないか
と思います。教会というのは、一人ではなれません。ともに生きるから教会です。ですから連帯責任
感をいつも意識しなければなりません。

私はよく「イエス様の呼びかけ」という言葉を使いますが、今日の福音（マタイ 22・1-14）を読ん
で感じたのは、呼びかけより招きではないかということです。いつも招待してくださるイエス様のみ
心です。招待と言えば、何か、よいことに招かれる気持ちになります。悪いことに人を招待はしませ
ん。あなたによいものを与えますよ、あなたに喜びを与えますよ、という意味を持っているではあり
ませんか。呼びかけ、といえは嫌なことをさせられる気持ちにもなりますから、やはりイエス様は今
日のたとえのようにいつも私たちを招いてくださっていると思いました。

ありがとうございました。